幼稚園教育実習の事前指導の在り方を探る —実習前の学生の心情から—

Exploring the Ideal Form for the Instruction Preceding Teaching
Practice at Kindergartens
—Based on students' feelings prior to the practice—

守屋 操*・井山房子**・古埜弘子**・白神繁子*・

Misao MORIYA・Fusako IYAMA・Hiroko KOYANO・Shigeiko SHIRAGA・

平松由美子**・馬場訓子**・高橋 慧*

Yumiko HIRAMATSU・Noriko BABA・Kei TAKAHASHI

Abstract

This essay discusses the desirable and ideal form for instruction implemented ahead of teaching practice at kindergartens based on careful examination of the lesson development and instructional content of teaching staff, and on a questionnaire survey of students' feelings prior to implementing the practice. The research focused on the preliminary instructions delivered by seven teaching staff at a four-year college and a two-year junior college, and on 133 students of the two colleges who were scheduled to implement the practice. In terms of the contents of the preliminary instruction delivered by the teaching staff, activities such as the following were raised as characteristics or points of innovation within the instruction: "reflecting on previous taught subjects and practice," "creating teaching plans and implementing childcare simulations," "a study visit to a kindergarten and a lecture from the Principal," and "students' research into teaching materials." Likewise, in the questionnaire surveys of the students, three categories within their anxieties towards the practice were extracted that pertained to: "childcare," "interpersonal relationships within the kindergarten," and "the awareness of being a working adult/professional." In terms of the future desirable and ideal form for preliminary instruction implemented prior to teaching practice at kindergartens, based on the effects and effectiveness of the contents of instruction currently implemented, it was demonstrated that instruction needs to be further improved in line with the three categories of anxieties obtained from the questionnaire surveys.

キーワード：幼稚園教育実習、事前指導、実習生、不安

I 問題意識

1 研究の背景

保育者養成校において、幼稚園教諭免許状の取得に必要な科目は、教養教育科目と専門教育科目から構成されているが、教養教育科目は、広い教養を身に付けることを目的とした科目であり、専門教育科目は、保育や教育に関する知識や技術を習得するための科目で、教職に関する科目と教科に関する科目に分かれている。その中で、保育者志望学生は、幼稚園に通いながら保育・教育の観察や実践を行う幼稚園教育実習を実施する。この「教育実習」は、教職に関する科目に位置付けられ、「教育職員免許法施行規則」で5単位の取得（「事前・事後指導」として1単位、実習として4単位）が規定されており、実習期間は20日間である。

幼稚園教育実習は、学生にとって養成校で学んだ保育に関する知識や技術を基に、実際の現場で保

* 作陽音楽短期大学音楽学科幼児教育専攻 Sakuyo Junior College of Music, Department of Music, Major of Childhood Education

** くらしき作陽大学子ども教育学部子ども教育学科 Kurashiki Sakuyo University, Faculty of Childhood Education

育の実践を行う貴重な機会である。そして、保育現場における幼児や教師の実態について、現実的な理解を深めながら、保育職への就職意欲を高めたり再認識したりする契機として機能する。一方で、多くの学生が、様々な不安や戸惑いを感じながら実習初日を迎えることは、疑いのないことであるだろう。そのため、実習前の事前指導において、学生の抱えている不安の具体的内容を踏まえながら、学生のニーズに応じた適切な指導を展開することは、重要な課題であると考えられる。本多・櫻井(2011)⁽¹⁾は、教職課程のある養成校における学生414名を対象に、幼稚園教育実習前に質問紙調査を行い、具体的な実習への不安感として「子どもとの関係に関する不安」「実習継続に関する不安」「保育の実践に関する不安」「身だしなみに関する不安」「保育現場への適応に関する不安」の5因子を抽出した。その上で、5因子に基づく個々の学生の課題を明らかにし、適切な支援を講じる必要性を述べている。先行研究では、他にも、学生の幼稚園教育実習に対する不安感の考察(戸田, 2014)⁽²⁾や、幼稚園教育実習で学生が感じる困難に関する研究(佐藤・阿部, 2016)⁽³⁾等の報告もなされているが、幼稚園教育実習に対する学生の認識や心情に着目した研究は、十分に行われていない現状も指摘できる。そこで、年々変化する学生の実態や社会的背景に即しながら、幼稚園教育実習の事前指導を行うことは、養成校の教員に課せられた重要な役割と責務であると考えられ、次に示す本論の目的もそこから生じたものである。

2 目的

本論は、岡山県倉敷市内にある学校法人作陽学園によって経営されるくらしき作陽大学子ども教育学部子ども教育学科保育園・幼稚園コース(4年制)及び作陽音楽短期大学音楽学科幼児教育専攻(2年制)において、その保育者養成課程における幼稚園教育実習の事前指導を取り上げる。研究主題として、幼稚園教育実習を実施するまでの事前指導の内容、及び実習予定学生の実習前の心情に焦点を当てる。具体的には、事前指導における教員による授業展開と指導内容について、学生133名から得た実習前の心情に関する質問紙調査の分析結果と対応させながら精査し、より望ましい学生の指導方法を探ることを目的とする。

II 方法

1 くらしき作陽大学(4年制)における幼稚園教育実習

(1) 対象者・方法・期間

本論の研究対象として、第1に、くらしき作陽大学子ども教育学部子ども教育学科保育園・幼稚園コースにおける授業科目「教育実習研究(幼稚園)」を取り上げる。同大学は、前期・後期の2 Semester制を採用しているが、同授業は、実習の事前・事後指導を含んでおり通年で開講として位置付けられている。授業履修者である学生は、本研究の実施時期においては108名であった。授業担当教員は、本論の執筆者である井山・古埜・平松・馬場である。この授業における幼稚園教育実習の事前指導に関する部分に着目し、使用する教材や指導方法について精査することで、より望ましい授業の在り方を探る。

第2の研究対象は、上記授業の履修者である子ども教育学部子ども教育学科保育園・幼稚園コース所属の3年生108名である。同108名は、幼稚園教育実習(2017年9月1日~29日)の実施予定者であり、このうち2名を除く106名は、前年の11・12月に保育所実習(20日間)を実施済みである。筆者らは、これらの学生に対して、自記式質問紙による調査を実施した。調査日は、2017年8月28日である。協力依頼文を記載した質問紙を配布し、記入後に質問紙を回収したもので、質問紙の回収率は100%(108名配布、108名回収)であった。

(2) 調査の倫理的配慮

学生108名に対する質問紙調査においては、回収した質問紙を厳重に保管し、結果は目的以外に使用しないこと、研究終了後は質問紙及びデータを速やかに破棄することを文書にて説明した。

(3) 調査内容

「実習に行くにあたって心配なことや不安なことは何ですか? (箇条書き・複数回答可)」, という質問事項について、回答を求めた。これによって、幼稚園教育実習に対する学生の心境を明らかにする。

(4) 分析方法

学生に対する質問紙調査の記述内容について、KJ法 (川喜田ら, 1970)⁽⁴⁾ に準じた方法で整理し分類することで質的分析を行った。

2 作陽音楽短期大学 (2年制) における幼稚園教育実習

(1) 対象者・方法・期間

本論の研究対象として、第1に、作陽音楽短期大学音楽学科幼児教育専攻における授業科目「教育実習研究 (幼) (短幼)」を取り上げる。同短期大学は、前期・後期の2セメスター制を採用しているが、同授業は、実習の事前・事後指導を含んでおり通年での開講として位置付けられている。授業履修者である学生は、本研究の実施時期においては25名であった。授業担当教員は、本論の執筆者である守屋・白神・高橋である。この授業における幼稚園教育実習の事前指導に関する部分に着目し、授業に使用する教材や指導方法について精査することで、より望ましい授業の在り方を探る。

第2の研究対象は、上記科目の授業履修者である音楽学科幼児教育専攻の2年生25名である。同25名は、幼稚園教育実習 (2017年9月1日~29日) の実施予定者であり、また、同年7月に保育所実習 (20日間) を実施済みである。筆者らは、これらの学生に対して、自記式質問紙による調査を実施した。調査日は、2017年8月28日である。協力依頼文を記載した質問紙を配布し、記入後に質問紙を回収したもので、質問紙の回収率は100% (25名配布、25名回収) であった。

(2) 調査の倫理的配慮・調査内容・分析方法

調査の倫理的配慮、調査内容、分析方法については、先述したくらしき作陽大学 (4年制) における質問紙調査の手続きと同様である。

III 結果と考察

1 くらしき作陽大学 (4年制) における幼稚園教育実習の事前指導

(1) 事前指導のねらい

幼稚園教育実習における事前指導の大きなねらいとして、学生が、下記に示す①~③の項目を達成することができるよう指導することに重点が置かれている。

- ① 実習生に求められる態度の習得
- ② 保育実践に関する基礎的な資質の獲得
- ③ 実習を行う上での自己課題の設定

(2) 「教育実習研究 (幼稚園)」における事前指導に関する授業内容

くらしき作陽大学子ども教育学部子ども教育学科における授業科目「教育実習研究 (幼稚園)」では、表1に示す授業計画に基づき、実習の事前指導 (10コマ分) を行っている。表1では、1~10回目までの授業内容について、各回のキーワードを示した。

表1 「教育実習研究 (幼稚園)」における授業内容

回	授業内容
1	オリエンテーション, 『幼稚園実習の手引き』の受け取り, 保育所実習の振り返り (課題) これまでに受講した保育関連の授業の振り返り
2	実習の流れや実習の内容 (実習で学びたいこと, 自己課題) に関する把握 (課題) 実習における自己課題の設定
3	実習の実際に関する把握

4	指導案の書き方（『指導案作成の手引き』参照） （課題）自己課題の書き直し、指導案の作成
5	模擬保育の実施、教材の調査・研究、幼稚園の見学 （課題）自己課題の書き直し
6	幼稚園園長による講話
7	模擬保育の実施、教材研究
8	学級経営と生活指導に関する把握、承諾書取り付けについて、グループワークによる教材研究の共有
9	日誌の書き方、SNS について、グループワークによる教材研究の共有、グループで作成した教材研究に関する原稿提出
10	授業のまとめとテスト、実習までの取り組み、教材研究に関する冊子『9月の教材集』の受け取り
※実習開始の数週間前、各自で実習園にて事前オリエンテーションを受ける	

（3）事前指導における活動内容

事前指導における主な活動内容として、下記に示す①～⑧が挙げられる。ここでは、表1を参照しながら説明する。

① 担当教員の特性

表1に示す授業では、本論の執筆者である井山・古埜・平松・馬場が担当教員となっている。このうち3名は、現場の幼稚園における30年以上の保育実績を持つ園長経験者であり、1名は10年以上の保育実績を持つ幼稚園教諭経験者である。すなわち、実習担当教員は、幼稚園の現場出身者で構成されており、表1の全ての内容において、現場目線での実践的な指導やアドバイスが学生に提供される場所に、一つの特徴を挙げることができる。

② 講義

教員による講義は、表1における1～10回目の授業内容（以後「表1-1～10」のように表記）の全てで実施される。講義形式の指導時には、レジュメの他に『幼稚園教育要領』（2008）⁽⁵⁾、『幼稚園教育要領解説』（2008）⁽⁶⁾を参照し、『幼稚園実習の手引き』（図1）という冊子も活用している。この冊子は、この授業のために学内で独自に作成され、8つの項目から実習に関する内容がまとめられたものであり、1回目の授業時に配布されるものである。

③ 過去の授業科目や実習の振り返り

幼稚園教育実習の事前指導においては、過去の授業科目や実習の振り返りを意図的に行った。これは、くらしき作陽大学における幼稚園教育実習が、教職課程の後半の時期に実施されることと関連する。つまり、幼稚園教育実習は、3年次9月の実施であるが、その1年前の2年次11・12月に保育所実習が実施されている。したがって、幼稚園教育実習は、保育所実習での様々な成功経験や失敗経験、保育士からの指導等を基礎として、その上に積み重ねられる実習であると言える。そこで、学生は、保育所実習の振り返り（表1-1）として、「保育所実習で学んだこと」「保育所実習の反省」「幼稚園教育実習への期待や不安」の項目ごとに回答するワークシート（A4版）を作成した。保育所実習を意識的に振り返ることで、自らが得た学びや反省点について再認識し、幼稚園教育実習に対する意欲向上へと繋げることが可能であると言える。

また、これまでに受講した保育関連の授業の振り返り（表1-1）では、学生が1・2年次に学んだ専門科目の内容、例えば「保育内容総論」や「教職論」等の授業科目で学んだ内容を思い出しながら所定のプリントに記入し、「これらの学びの中で最も関心のあること、実習を通して学びを深めたいと考えること」を書くことが求められる。この振り返りの作業は、実習における自己課題の設定（表1-2）を行うための一助となる。

幼稚園教育実習の手引き 目次	目次
1 幼稚園教育実習とは	②全日実習 8
(1) 幼稚園教育実習の位置づけ 1	<全日実習の留意事項> 9
(2) 実習の意義 1	<実習を終えて> 9
(3) 実習の目的 1	資料1・・・幼稚園における1日の生活の流れの一例 10
(4) 実習の目標 1	資料2・・・実習生の1日 11
①幼児を指導する	
②幼稚園教職の仕事の内容と役割を理解する	6 実習日誌
③幼稚園の社会的役割を知る	(1) 実習日誌を書く意味 14
④保育者としての指導技術や態度を身につける	(2) 実習日誌の書き方 14
⑤保護者としての資質を高めるための課題を見つける	(3) 注意事項 15
	資料3・・・実習日誌の形式と記入の仕方 16
2 実習の流れ	7 指導計画の作成
(1) 実習前 2	(1) 指導計画作成上の留意点 18
(2) 実習中 2	(2) 指導計画作成について 18
(3) 実習後 2	①幼児の姿を捉える 18
(4) 実習の評価 2	②ねらいと内容 18
	③環境の構成 18
3 実習への心構え	④予想される幼児の活動 19
(1) 社会人としての規律・礼儀の遵守 3	⑤教師の援助 19
(2) 一かを専門学習と積極的な取り組みを 3	⑥反省・評価 19
(3) 絶対に正しい答えと標準解答を 3	資料4・・・指導案の形式と記入の仕方 20
(4) 実習に集中できる環境づくり 3	
4 実習準備	8 実習のまとめ
(1) 『教育実習研究』の編修 4	(1) 実習日誌での振り返り 21
(2) 実習園の決定 4	(2) 実習園での挨拶 21
(3) 実習のオリエンテーション 4	(3) 実習園へのお礼 21
(4) その他 5	(4) 実習報告書 21
(5) 実習の課題 5	(5) 事後指導 21
5 実習の実施	参考資料1・・・電話での日程調整の仕方 22
(1) 観察実習 6	参考資料2・・・オリエンテーションで聞いておきたいこと 24
<観察のポイント> 6	
(2) 参加実習 7	
<参加実習の留意事項> 7	
(3) 指導実習 8	
①部分実習の内容 8	
<部分実習の留意事項> 8	

図1 『幼稚園実習の手引き』目次

④ 指導案の作成と模擬保育の実施

実習中に行う保育実践に向けた準備の一環として、指導案の作成と、指導案の内容に沿って実践する模擬保育を行った。指導案の作成に関する指導は、既に他の授業でも実施されているが、その学習の上にさらなる理解と実践力を積み重ねるため、実習前に再度取り組んだ。指導案に関する指導では、『保育指導案作成の手引き』^{*1}という手引き書を活用した。

また、実習時期である9月を想定した指導案作成を学生に課した(表1-4)。課題として提出された指導案の中から、4名分の指導案を代表として選出し、その指導案を印刷して学生全員に配布すると同時に、その内容に沿った模擬保育を実施した。模擬保育とは、学生が教師役と幼児役に分かれ、実際の保育実践と同じように実践を展開し、その内容を振り返るといった活動である。ここでは、授業2コマの中で4名分の模擬保育を行い、教員と学生全員による振り返り作業を通して、反省点や改善点を抽出した(表1-5・7)。全ての学生は、模擬保育の振り返りシートを作成し、実習における部分指導等の保育実践に役立てられるようにした。さらに、現場での保育実績を有する本授業の担当教員が、模範保育を学生に披露し、学生にとってより実践の参考となるような機会を設けた。

⑤ 幼稚園見学と園長による講話

大学近隣のA幼稚園の協力を得て、学生がA幼稚園を訪問し、保育現場を見学する活動を実施した(表1-5)。学生にとって、幼児の生活や遊びの様子、教師の幼児への関わり、幼児を取り巻く環境等を実際に見て学ぶ体験となった。また、A幼稚園の園長を大学に招いての講話も実施した(表1-6)。学生が幼稚園を見学した際の様々な活動や環境について、教師のねらいや願い、活動の意図、幼児の活動の意味について学ぶことができた。その他にも、幼児の成長に関すること、教師の実践や資質に関すること、幼稚園見学では見ることでできなかった様々な生活場面や行事等の活動について、スライドを使った講話を聞き、幼稚園教育に関する知見を深めて実習に対する意欲を高める機会となった。

⑥ 学生による教材研究

保育実践に関する知識や技能を向上させることを目的として、学生による教材研究を取り上げた。まず、学生一人一人が、実習時期である9月の遊びや教材を調査した(表1-5・7)。次に、学生

*1 この冊子は、保育職の経験者を中心とした学内の教員10名によって、独自に作成されたものである。内容は、指導案作成の留意事項、0歳児～5歳児を対象とした保育所の指導案例(全9例)、3歳児～5歳児を対象とした幼稚園の指導案例(全7例)の3項目から構成される。

が6人程度のグループに分かれ、自らの調査した教材を紹介し合い、各グループごとに最も推奨される教材を1つずつ選出した。各グループからは、推奨する教材1つに関して説明されたプリントが提出された(表1-8・9)。最後に、それらはまとめて『9月の教材集』という冊子となり、全員に配布された(表1-10)。

⑦ 実習日誌及びSNSに関する説明

実習日誌の作成においては、先述した『幼稚園実習の手引き』(図1)に基づきながら、記述の内容や方法について指導した(表1-9)。また、実習中のSNSの利用に際しては、近年、個人情報の取り扱いが益々厳重になってきている社会的背景を踏まえて、守秘義務の遵守が必須であること等を指導した。

⑧ テスト

「教育実習研究(幼稚園)」の事前指導における最終回の授業において、授業のまとめを実施し、テストを課した(表1-10)。テストの内容は、『幼稚園実習の手引き』(図1)の記載内容や、模擬保育及び幼稚園見学を通して学んだことを取り上げ、幼稚園教育に関する総括的な復習を行う機会とした。

2 作陽音楽短期大学(2年制)における幼稚園教育実習の事前指導

(1) 事前指導のねらい

幼稚園教育実習における事前指導の大きなねらいとして、学生が、下記に示す①～③の項目を達成することができるよう指導することに重点が置かれている。

- ① 実習生に求められる態度やマナーの習得
- ② 保育実践に関する技能の獲得や教材研究の実施
- ③ 実習を行う上での自己課題の設定

(2) 「教育実習研究(幼)(短幼)」における事前指導に関する授業内容

作陽音楽短期大学音楽学科幼児教育専攻における授業科目「教育実習研究(幼)(短幼)」では、表2に示す授業計画に基づき、実習の事前指導(12コマ分)を行っている。表2では、1～12回目までの授業内容について、各回のキーワードを示した。

表2「教育実習研究(幼)(短幼)」における授業内容

回	授業内容
1	オリエンテーション、幼稚園教育実習とは、『幼稚園実習の手引き』の受け取り (課題)『幼稚園実習の手引き』(一部)のまとめ
2	実習の流れ、実習の心構え (課題)『幼稚園実習の手引き』(一部)のまとめ、9月の遊びの教材研究
3	実習の準備、実習の目標、自己課題の設定
4	保育計画の基本、指導案と指導の実際、教材研究の共有 (課題)『幼稚園実習の手引き』(一部)のまとめ、指導案の作成
5	現場の保育参観、保育観察と自己課題
6	幼稚園見学 (課題)見学実習記録の作成
7	幼稚園見学に関するグループ協議、指導案の書き方とねらい、模擬保育について
8	模擬保育の実施、保育観察のあり方と方法、遊びの指導の実際、テスト
9	幼稚園園長による講話
10	模擬保育の実施、保育観察のあり方と方法、遊びの指導の実際
11	学級経営と生活指導、実習日誌の作成、SNSについて
12	授業のまとめ
※実習開始の数週間前、各自で実習園にて事前オリエンテーションを受ける	

(3) 事前指導における活動内容

事前指導における主な活動内容として、下記に示す①～⑧が挙げられる。ここでは、表2を参照しながら説明する。

① 担当教員の特性

表2に示す授業では、本論の執筆者である守屋・白神・高橋が担当教員となっている。このうち2名は、現場の幼稚園における30年以上の保育実績を持つ園長経験者である。実習担当教員の中に、幼稚園の現場出身者が2名おり、表2の全ての内容において、現場目線での実践的な指導やアドバイスが学生に提供されるところに、一つの特徴を挙げることができる。

② 講義

教員による講義は、表2における1～12回目の授業内容（以後「表2-1～12」のように表記）の全てで実施される。講義形式の指導時には、レジュメの他に『幼稚園教育要領』（2008）⁽⁵⁾、『幼稚園教育要領解説』（2008）⁽⁶⁾、『指導計画の作成と保育の展開』（2013）⁽⁷⁾、『幼稚園実習の手引き』（図1）を活用している。

③ 『幼稚園実習の手引き』の記載内容をまとめる課題

学生には、『幼稚園実習の手引き』の記載内容をまとめるという課題を、数多く課した（表2-1・2・4）。これによって、毎回の授業内容を振り返りながら整理する機会を設けた。

④ 学生による教材研究

保育実践に関する遊びのレパートリーを広げることを目的として、学生による教材研究を取り上げた。まず、学生一人一人に、実習時期である9月を取り上げた遊びや教材の調査を課した（表2-2）。学生は、「絵本や紙芝居など・手遊び」「歌（歌唱指導）」「体操やリズム・楽器遊び」「絵画製作」「集団遊び（戸外）」「集団遊び（室内）」の各項目について、3・4・5歳のそれぞれで適切な遊びを調査し、プリントを作成した。最後に、それらをまとめた教材集が、学生全員に配布された（表2-4）。

⑤ 指導案の作成と模擬保育の実施

実習中に行う保育実践に向けた準備の一環として、指導案の作成と、指導案の内容に沿って実践する模擬保育を行った。指導案の作成に関する指導は、既に他の授業でも実施されているが、より具体的な実践のポイントを学ぶために再度取り組んだ。指導案については、『保育指導案作成の手引き』^{★1}を活用した。また、実習時期である9月を想定した指導案の作成を学生に課した（表2-4）。

課題として提出された指導案の中から、4名分の指導案を代表として選出し、印刷して学生全員に配布した。それらの指導案は、造形製作、絵本の読み聞かせ、楽器遊び等、異なる分野に関するものを選抜し、多様な遊びに関する指導を学生全員で共有できるようにした。模擬保育では、学生が教師役と幼児役に分かれ、指導案に基づいて、実際の保育実践と同じように実践を展開し、その内容を振り返った。ここでは、授業2コマの中で4名分の模擬保育を行い、教員と学生全員による振り返り作業を通して、反省点や改善点を抽出した（表2-8・10）。全ての学生は、模擬保育の評価シートを作成し、実習における部分指導等の保育実践に役立てられるようにした。

⑥ テスト

実習に向けた事前指導の内容を復習するため、テストを実施した（表2-8）。その内容は、『幼稚園実習の手引き』（図1）の記載内容を取り上げ、幼稚園教育に関する総括的な復習を行う機会とした。

⑦ 幼稚園見学と園長による講話

大学近隣のA幼稚園の協力を得て、学生が実際の幼稚園を訪問し、保育現場を見学する活動を実施した（表2-6）。また、A幼稚園の園長を大学に招いての講話も実施された（表2-9）。これらは、先述したくらしき作陽大学における授業科目「教育実習研究（幼稚園）」にも同様の内容があるが、両者は共同で実施されたものであり、学生は、幼児の生活、教師の動きや言葉掛け、園における環境等に関する学びを得て、実習に対する意欲を高める機会となった。

⑧ 実習日誌及びSNSに関する説明

実習日誌の作成においては、『幼稚園実習の手引き』（図1）に基づきながら、記述の内容や方法に

について指導した(表2-11)。また、実習中のSNSの利用に際しては、近年、個人情報の取り扱いが益々厳重になってきている社会的背景を踏まえて、守秘義務の遵守が必須であること等を指導した。

3 実習前の心情に関する実習予定学生への質問紙調査

先述した2大学における実習予定学生(計133名)は、実習が行われる直前に実施した質問紙調査において、「実習に行くにあたって心配なことや不安なこと」に関して具体的にどのような内容を述べたのであろうか。そこで、全ての回答内容について、KJ法に準じた方法で類似するものをカテゴリー分けした。2大学の学生の回答内容は大きく似通っていたため、両者を別々に取り扱わずに一括して分析対象とした。

回答内容を分析した結果、実習を行う上での心配なことや不安なことについて、「(1) 保育に関すること」「(2) 園内の人間関係に関すること」「(3) 社会人・職業人としての意識に関すること」の3つのカテゴリーに大きく分類された。それら3つは、それぞれ下位のカテゴリー(①②③等で表記)に分類された。それでは、学生によって述べられた内容を、下記のとおり具体的に見てみよう。代表的な回答を、線で囲った枠の中に挙げた。

(1) 保育に関すること

このカテゴリーは、専門的な技術や指導方法、教師としての心構え等、保育の専門性に関する内容について述べられたもので、5項目に分類できた。その中でも、実際の保育実践や保育の指導に関する「①保育の指導」は、回答数が他と比べて突出して多く、学生の大きな関心が認められた。また、その他に「②日誌・指導案」「③保育技術」「④教師としての役割」「⑤幼児への関わり」に関する内容も回答された。

① 保育の指導

学生の大きな関心が認められたのは、指導に対する不安である。具体的には、実習における部分指導や全日指導のことであり、学生は、自らに課せられる保育実践を適切に行うことができるかを心配している。「部分指導や全日指導で何をしたら良いか考えるのに時間がかかること、その活動が上手にできるのかという不安」「指導で幼児を楽しませることができるか」という回答が示すように、実習を迎える上での学生の大きな課題は、遊びや活動の指導であると言えるだろう。

また、「年齢に応じた遊びの指導」「発達過程が分かっていないので、どんな対応が適切か分からない部分がある」という回答のように、幼児の発達過程に応じた適切な遊びを見極め、部分実習等を行う難しさも挙げられていた。「保育所実習が1歳担当、今回が4歳担当であり、年齢差があり指導内容が不安」と述べられるように、保育所実習では3歳児未満のクラスで実習を行った学生が多く、幼稚園教育実習では3歳児以上のクラスで指導を行うことになるため、年齢による発達の違いに不安を感じる事例は多いと考えられる。指導の回数の多さに対する不安も認められ、「部分実習がとて多いでやり切れるか不安」「指導内容、指導回数が分かっていないこと」等の回答が該当する。

さらに、保育現場では、生活の様々な場面で簡単な活動を急に実践することもあり、そのような、事前の計画にない予期しない場面での実践に対する不安も見られた。「指導案も何も準備をしていないのにいきなり何かやると言われた時に、自分が指導できるか心配」「急に何かふられて対応できるか」等の回答が該当する。

- 部分指導や全日指導で何をしたら良いか考えるのに時間がかかること、その活動が上手にできるのかという不安。
- 指導で幼児を楽しませることができるか。
- 年齢に応じた遊びの指導。
- 発達過程が分かっていないので、どんな対応が適切か分からない部分がある。
- 保育所実習が1歳担当、今回が4歳担当であり、年齢差があり指導内容が不安。
- 部分実習がとて多いでやり切れるか不安。
- 指導内容、指導回数が分かっていないこと。

- 指導案も何も準備をしていないのにいきなり何かやってと言われた時に、自分が指導できるか心配。
- 急に何かふられて対応できるか。
- 子ども、職員の方々を目の前に、堂々と指導ができるかどうか。
- 先生として子どもの前でしっかり指導ができるかどうか。
- 自分の作ったものや考えた遊びが上手にできるかどうか。
- 初めて複式の学級なので、指導が適切に行えるかどうか。

② 日誌・指導案

日誌や指導案を書くことの難しさ、その負担の大きさに関する不安も認められた。「子どもの発達に合った指導案が書けるのか」「毎日の日誌を、上手くポイントをつかんで書くことができるか不安」という回答が該当する。実習以前に、事前指導を含む複数の授業で、指導案の書き方に関する講義や課題を行っているものの、専門的な記載方法や文章表現が求められる日誌や指導案に、学生が大きな不安を感じるようになった。また、実際の幼児の姿を捉えた上でねらいを設定し、それに沿った指導案を作成するところに、学生は不安を感じる人が多いが、幼児の姿に即してねらいを設定する機会は、幼児がいる現場の園でなければ実現しにくい。大学の授業では、ねらいの部分を教員が指定せざるを得ない場合があり、その点において、授業時に作成する指導案より高度な能力が要求されるため、学生の不安を招くものであると考えられる。

指導案に対する学生の不安は、幼稚園教育実習より以前に実施した保育所実習において、指導案が上手に書けなかったり、書き方が分からなかったりした経験が影響していると考えられる。また、教員側が、実習の事前指導において、他の科目と連携しながら学生に対して指導案の重要性を強く示したことも、このような回答が多く認められた要因であると考えられる。

- 子どもの発達に合った指導案が書けるのか。
- 毎日の日誌を、上手くポイントをつかんで書くことができるか不安。
- 指導回数が多く、日誌を書きながら指導案をきちんと立てることができるのか。
- 早く起きるので、夜遅くまで日誌や指導案を書くことができるか不安。
- 日誌や指導案の準備が十分にできるか。

③ 保育技術

「ピアノ（課題曲）」「読み聞かせや弾き歌いを上手にできるか」「手遊び、歌遊びを上手に子どもたちの前でできるか」という回答のように、保育技術に対する不安が認められた。それらは、ピアノや弾き歌いといった音楽領域、製作等の造形領域、言語領域である読み聞かせ等、多岐にわたっていたが、「ペン、箸の持ち方について、普段できていないのでその場でそれができるか不安」という基本的な生活習慣に関する回答も認められた。

- ピアノ（課題曲）。
- 10曲も練習するよう言われたピアノの曲をしっかりと弾くことができるか。
- 読み聞かせや弾き歌いを上手にできるか。
- 手遊び、歌遊びを上手に子どもたちの前でできるか。
- ピアノや歌の指導を一からやると言われたが、頂いた楽譜が自分にはとても難しく弾けない。どうすればいいのか。
- 造形物の製作が苦手で雑になりやすい。
- ペン、箸の持ち方について、普段できていないのでその場でそれができるか不安。

④ 教師としての役割

一部の学生は、適切な教師像を自分自身が体現することができるのかという不安を抱えており、「教育者としてしっかり役割を果たすことができるのか」という回答に表れている。また、「運動会の練習で役に立つことができるかどうか」「臨機応変に動けるか」のように、現場に求められる実践的な動きを臨機応変に行う難しさについて、いくつかの回答も認められた。

- 教育者としてしっかり役割を果たすことができるのか。
- 運動会の練習で役に立つことができるかどうか。
- 臨機応変に動けるか。

⑤ 幼児への関わり

幼児への関わりに関すること、例えば、トラブル時の対応や発達障害の幼児への対応、集団に対する言葉掛け等、幼児への関わり方に対する不安が認められた。これらは、幼児期の特性を理解しているからこその不安であるとも言えるだろう。

- 子どもの名前を早く覚えられるかどうか。
- 発達障害が疑われる子どもへの対応。
- トラブルが起こった時の対応。
- 落ち着くことが難しい子どもへの言葉掛けや関わり方。
- どのように子どもに関わればよいのか、一人一人に合った言葉掛けができるか。
- 全体に言葉掛けができるか。
- 保育所実習では2歳児担当で、今回は4歳児なので関わり方が不安。

(2) 園内の人間関係に関すること

このカテゴリーは、実習園における人間関係に関する内容を述べたものである。具体的には、現場の教師・職員との人間関係、幼児との信頼関係の構築、他の養成校の実習生との関係性であった。

① 教師との人間関係

保育現場では、職員同士の協働関係が密接であり、そのことから起因する様々な人間関係の難しさについて指摘されることも多いが、現場の教師・職員と良好な対人関係を築くことができるかという不安は、学生が高い関心を示す内容である。それは、「園の先生方と上手に関わっていくことができるか」「担任の先生と上手にコミュニケーションをとれるか」等の回答に表れている。本調査の対象学生は、過去に保育所実習を実施しているため、その際に経験した現場保育者との様々な人間関係が、この項目の回答に大きく影響していると考えられる。

- 園の先生方と上手に関わっていくことができるか。
- 担任の先生と上手にコミュニケーションをとれるか。
- 先生たちと楽しく会話をすることができるのか。
- 園の先生方ときちんと報告・連絡・相談ができるか。
- 園の先生との人間関係。

② 幼児との信頼関係の構築

幼児との信頼関係の構築は、実習期間中における必須の課題であるが、「子どもたちと信頼関係を築けるか」「幼稚園の子は、保育所の子に比べて大人っぽい印象を抱いたので不安」等の回答は、そのことへの不安を表明したものであると言える。

- 子どもたちと信頼関係を築けるか。
- 幼稚園の子は、保育所の子に比べて大人っぽい印象を抱いたので不安。
- 子どもと仲良くなれるか。
- 子どもと上手になじめるか。
- 幼児が私の話を聞いてくれるのか。

③ 他の実習生との協働

実習園によっては、複数の養成校から実習生を受け入れている園もあり、異なる養成校の学生が同一園で同時期に実習を行い、共同で一つの活動を実践する場合もある。「他大学の学生と連携することができるか」「同じクラスに他大学の実習生もいるので、レクリエーションや誕生会の出し物を上手く協働してできるか少し不安」といった回答は、見ず知らずの学生と一緒に協働することの不安等を述べている。

- 他大学の学生と連携することができるか。

■同じクラスに他大学の実習生もいるので、レクリエーションや誕生会の出し物を上手く協働してできるか少し不安。

(3) 社会人・職業人としての意識に関すること

このカテゴリーは、実習を通して学生に求められる、社会人・職業人としての在り方に関する意識について述べられている。社会人として望ましい生活習慣や、最低限に求められるマナー等、社会的に必要なとされる基礎的な態度や生活習慣について取り上げられている。

① 体調管理や精神的ストレス

学生にとっての実習に対する不安は、保育の専門性に関することだけではない。「1か月間、精神的にも身体的にも乗り切れるかどうか」という回答に示されるように、体調管理や精神的ストレスのコントロールも大きな関心事であり、遅刻・欠勤をせずに実習を完遂することそのものが、一つの課題であると考えられる。例えば、「一人で行くので、気軽に相談する人がいない」という心配は、精神的に頼ることのできる存在を必要としている学生の心情を示しているだろう。また、「一人暮らしのため、毎日の食生活が心配」「生活リズムの乱れや睡眠不足」といった回答は、日誌・指導案の作成や教材研究等の取り組みによって、実習期間中の基本的な生活習慣が崩れるのではないかという恐れを示しており、特に、実家暮らしよりも一人暮らしである学生に強く見られる傾向であるだろう。

- 1か月間、精神的にも身体的にも乗り切れるかどうか。
- 一人で行くので、気軽に相談する人がいない。
- 一人暮らしのため、毎日の食生活が心配。
- 生活リズムの乱れや睡眠不足。
- 指導の準備などで生活リズムが崩れること。
- 寝坊せずに毎日起きて、出勤時間に遅れずに行くことができるか。
- 初めて一人で行く実習なので少し不安。
- 20日間体調を崩すことなく元気に実習に行けるか。

② 弁当

実習中は、園によっては昼食となる弁当が必要であるが、事前指導において、市販の弁当や加工食品を購入した状態のまま園に持参することを禁じている。したがって、学生は、購入した調理済みの加工食品を弁当箱に詰め替えたり、自ら料理したりしなければならない。学生の中には、一人暮らしや料理が苦手な者も多く、また、日誌等の作成によって睡眠時間が少なくなる中、料理をするため早く起きることへの抵抗もあると言える。そのため、「毎日弁当を作れるか」「お弁当を作るのが雑にならないか」等の回答に見られるように、日々の弁当作りに不安を感じると考えられる。

- 毎日弁当を作れるか。
- お弁当を作るのが雑にならないか。
- 毎日弁当をつくること。

③ 通勤

学生によっては、実習園が居住地から遠い所にある場合があり、そのような学生は、通勤距離の長さとともに伴う通勤時間の長さにも、不安を感じる場合が認められる。

- 通勤が自転車で片道1時間以上あること。
- 園が家からとても遠いところにある。

④ 積極性

学生は、積極的に動くことの重要性を事前指導で学んでいるものの、やはり初対面の現場の教師と協働することや、実際の幼児を対象に保育を展開することに対して、遠慮や戸惑い、緊張を招くものであると考えられる。「色々考えると動けなくなるので（これはやってもいいのかなど）、どれだけ積極的に動けるかどうか」等の回答は、そうした不安を述べている。

- 色々考えると動けなくなるので（これはやってもいいのかなど）、どれだけ積極的に動けるかどうか。

- 自分から進んで行動できるか。
- 先生方に分からないこと、自分が思ったことを積極的に聞けるか。
- 積極的になれるか。

⑤ 言葉遣い

回答の中には、言葉遣いに関する内容も述べられており、教育者としての適切な言葉使いや敬語等について、不安が認められると予想できる。また、少数であるが、「標準語か岡山弁でないといけな
いと言われ、地元の言葉を封印すると、ぱっと言葉が出なくなる」という回答も認められた。

- 言葉遣い。
- 標準語か岡山弁でないといけな
いと言われ、地元の言葉を封印すると、ぱっと言葉が出なくなる。

IV 総合考察

1 幼稚園教育実習の事前指導に関する今後の課題

幼稚園教育実習の担当教員による授業展開及び指導内容と、学生133名から得た質問紙調査の分析結果を対応させると、幼稚園教育実習におけるより望ましい事前指導の内容や方法は、どのようなものであると考えられるであろうか。ここでは、先述したくらしき作陽大学における事前指導の内容(表1)と、作陽音楽短期大学における事前指導の内容(表2)をまとめて考察する。

(1) 「保育に関すること」の不安

質問紙調査の分析結果によれば、「(1) 保育に関すること」の不安として、①保育の指導、②日誌・指導案、③保育技術、④教師としての役割、⑤幼児への関わりを挙げた。その中で大多数の学生が回答していた「①保育の指導」「②日誌・指導案」「③保育技術」は、保育者養成課程における様々な専門教育科目の授業だけでなく、実習前の事前指導においても、学生が学びたいと感じていることであるだろう。例えば、本学においては、指導案の作成及び教師役と幼児役に分かれて行う模擬保育や、学生自身による教材研究を取り上げているが(表1・2)、事前指導のコマ数は非常に限られており、やはり他の授業との連携が重要であるだろう。つまり、保育内容を扱う演習系の授業において、保育の指導に関する知識と技術を身に付け、学生の実践力を向上させることができるように、授業展開を行うことが求められる。また、発達過程に関する理解が深められるような指導も重要である。そうした他の科目の担当教員と実習担当教員とでミーティングや情報交換等の連携を行い、保育の指導に関する学生の実態を把握しながら、事前指導の内容を組み立てることも求められると考えられる。実習に向けて、実習担当教員やその他の授業担当教員が一体となって系統的・組織的な指導を行い、その先にある重要な実践の機会として幼稚園教育実習が用意され、学生は授業で身に付けたことの集大成として自信を持って実習を迎えるのが理想であると言えるだろう。

また、「④教師としての役割」「⑤幼児への関わり」のような不安を少しでも軽減させるには、やはり保育現場で保育者と子どもとの関わりを実際に見て学ぶ機会が、非常に重要であると考えられる。本学では、近隣の幼稚園を見学する活動を取り入れているが(表1・2)、学生の人数が多く参加時間が限られる面も認められる。そのため、学生による自主実習(ボランティア)等の経験が、貴重な経験として作用すると考えられ、大学の附属認定こども園や地域の保育現場に積極的に赴く機会を重要視しなければならないであろう。学生に対して自主実習を事前に課すような指導も検討が求められると言える。

(2) 「園内の人間関係に関すること」の不安

「(2) 園内の人間関係に関すること」の不安として、①教師との人間関係、②幼児との信頼関係の構築、③他の実習生との協働を挙げた。これらの不安に対して、事前指導でその心理的負担を取り除くような授業展開は、難しい一面がある。やはり、対人関係構築能力は、実際の人付き合いやコミュニケーションの積み重ねによって養われるものであり、園における自主実習(ボランティア)やアルバイト等の経験を重ねることが、効果的であると考えられる。本学では、1年生の頃から保育者志望学生に対して、積極的に地域の幼稚園・保育所・こども園に自主実習(ボランティア)に行くように

指導しているが、そうした取り組みの強化が望まれると言える。また、本学には、地域貢献活動として、大学近隣の地域の子どもや保護者を1000人規模で集めて遊びを提供する「キッズキャンパス」という活動等があるが、学生がそのような機会を積極的に活用することも一つの方策である。他にも、大学のオープンキャンパス、地域のボランティア、アルバイト等に参加することによって、様々な世代の人達との関わりを経験し、人との関わり方を学ぶことが求められる。

(3) 「社会人・職業人としての意識に関すること」の不安

「(3) 社会人・職業人としての意識に関すること」の不安として、①体調管理や精神的ストレス、②弁当、③通勤、④積極性、⑤言葉遣いを挙げた。実習園から学生に求められる資質の一つは、こうした社会人としての基本的な姿勢、すなわち実習生としてのやる気や挨拶、社会性であり、私達養成校の教員に対する実習指導に関する要望としても、園関係者から多く聴取する内容である。これらは、事前指導のみでの指導では不十分な面もあり、社会人としての態度や生活習慣について、授業の他にもゼミ単位の個別指導等で補う必要があると言えるだろう。本学では、そのような社会人としての基本的事項を指導するキャリア科目というものがあるため、その授業内容を充実させたり、担当教員との連携を密に行ったりする工夫も効果的であると考えられる。

(4) 幼稚園教育実習の事前指導と学生の成長

先述した質問紙調査に基づく学生の様々な不安は、学生自身が、幼児教育の重要性を認識しているからこそ述べられる不安であるとも言える。本学の場合、それは、幼稚園教育実習より以前に行う保育所実習での経験を踏まえた、より具体的な戸惑いや不安であると言えるだろう。今後の望ましい事前指導の内容としては、上記に示した3つのカテゴリーの不安に対する指導内容に加えて、学生自身がキャリアアップを図ろうとする自覚を持てるようにすること、先輩の報告を聞く機会を設けること、履修カルテを活用すること等の方策も有効であると考えられる。さらに、保育に携わる者の心構えとして、幼児の命や安全を守る自覚を持つように学生を指導することも、保育者養成校に課せられた大きな役割であり、幼稚園教育実習の事前指導においても取り上げる命題であると考えられる。

引用文献

- (1) 本多潤子・櫻井登世子「幼稚園教育実習における実習不安の類型とその特徴」田園調布学園大学紀要(6), 2011, pp.49-60.
- (2) 戸田浩暢「学生の教育実習に対する不安感の考察」広島女学院大学人間生活学部紀要(1), 2014, pp.47-57.
- (3) 佐藤慶子・阿部敬信「幼稚園教育実習で学生が感じる困難に関する研究—幼稚園教育実習事後及び事前の自己評価アンケートの分析から—」別府大学短期大学部紀要(35), 2016, pp.17-26.
- (4) 川喜田二郎/牧島信一編『問題解決学KJ法ワークブック』講談社, 1970.
- (5) 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館, 2008.
- (6) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館, 2008.
- (7) 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館, 2013.